

がん検診・特定健診 受診率向上に向けた取組

京都市のがん検診と 協会けんぽの特定健診の 同時実施

京都市保健福祉局保健衛生推進室保健医療課
健康増進係長 田坂 泰士



京都市民健康づくりプラン（第2次：平成25年度～）

基本理念

～ 京都らしさにこだわっています ～

京都ならではの取組や強みを活かした健康づくりを市民ぐるみで推進し、いきいきと健やかな『笑顔・健康都市』をみんなで実現します

・ 健康で、人と環境にやさしい歩いて楽しい暮らし

歩くまち
・ 京都

ライフ
スタイル

・ 健康にも環境にもやさしい「ライフスタイル」「スローライフ」

・ 住民自治の伝統
・ 支え合いの精神

地域
コミュニティ

食文化

・ 世代を超えて受け継がれてきた技と心

全体目標

健康寿命の延伸

健康づくりの分野別計画・行動指針

～ 分野別の行動指針等の策定・推進 ～



① 栄養・食生活

新「京（みやこ）・食育推進
プラン」



② 身体活動・運動

京都市身体活動・運動に
関する行動指針



③ 休養・こころの健康

きょうといのちほっとプラン
(京都市自殺総合対策推進計画)



④ 歯と口の健康

歯ッピー・スマイル京都
(京都市口腔保健推進行動指針)



⑤ 喫煙

京都市たばこ対策行動指針
(第2次)

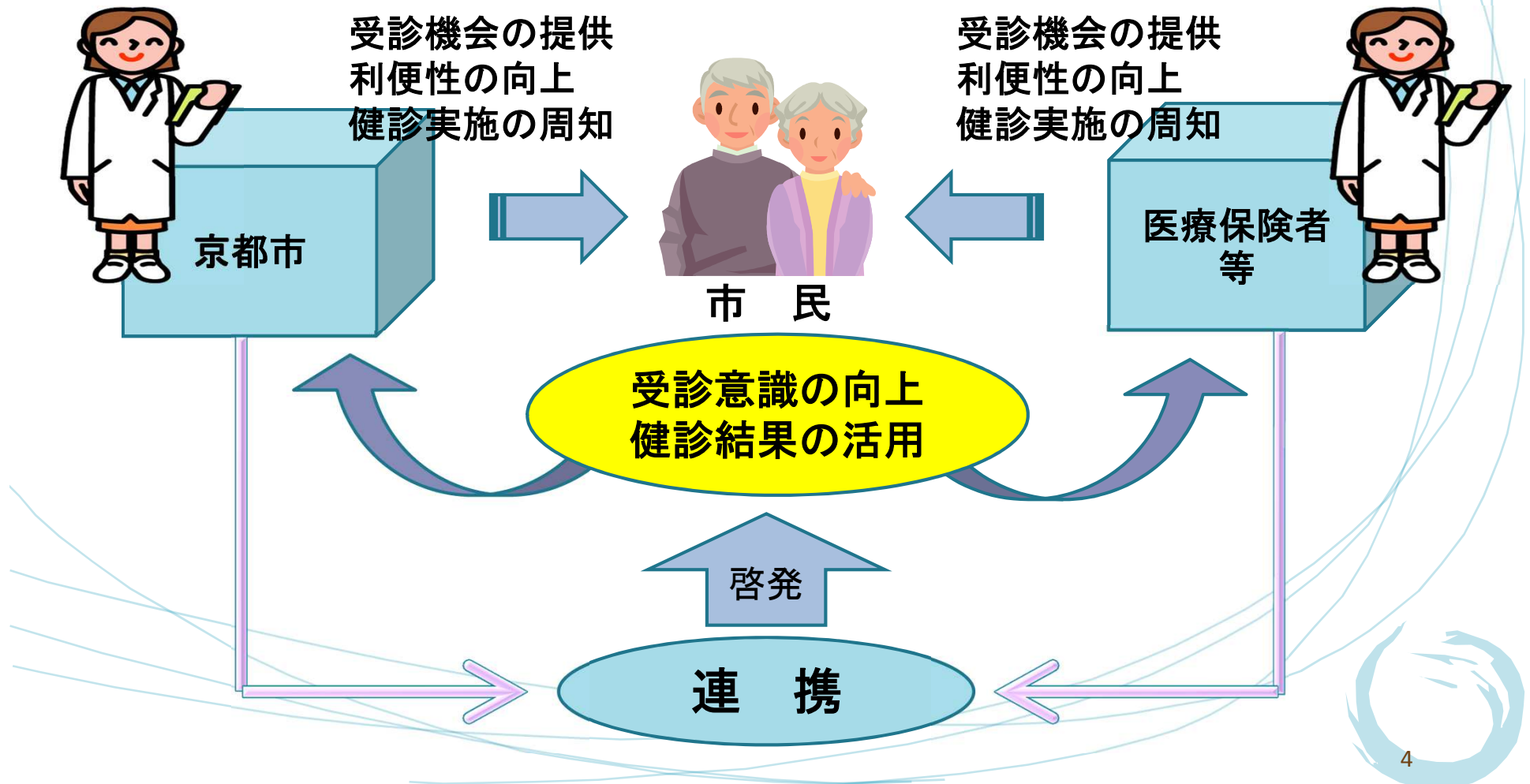


⑥ 飲酒

京都市飲酒に関する行動指針

病気の早期発見・早期治療（健診の受診）

～ 自覚のない症状も健診なら見つかります ～



京都市のがん検診の受診率

本市が実施するがん検診の受診者数から算出した受診率については全国平均を下回っており、受診率の向上が大きな課題

	胃がん	大腸がん	肺がん	乳がん	子宮がん
本市	2.4%	7.2%	8.7%	15.5%	14.3%
全国平均	9.2%	18.0%	17.0%	18.3%	23.9%

(平成23年度地域保健・健康増進事業報告)

京都市が実施するがん検診の一覧

部位	対象	検査内容	実施方法	料金
胃	40歳以上 (毎年)	バリウムによる 胃部X線撮影	①巡回検診車 ②保健センター	1,000円
大腸		便潜血検査	①保健センター・支所 ②胃がん検診会場 ③集団健診会場 ④指定医療機関 ⑤郵送検診(11~3月限定)	300円
肺		・胸部X線撮影 ・喀痰細胞診 (必要な方のみ)	①保健センター・支所 ②集団健診会場	X線：無料 喀痰：1,000円
乳房	30歳以上 (隔年)	・視触診 ・エコー検査(30歳代) ・マンモグラフィ検査 (40歳以上)	①巡回検診車 ②指定医療機関(40歳以上)	1,300円
子宮	20歳以上 (隔年)	・頸部細胞診 ・体部細胞診 (必要な方のみ)	指定医療機関	頸部：1,000円 体部：700円
前立腺 (24年度~)	50歳以上 (隔年)	PSA値測定	指定医療機関	1,500円

京都市における受診率向上への取組状況

○ 利便性の向上

▪ **がんセット検診（平成19年度～）**

5つのがん検診を一日で受診できる検診（定員3,000人 受診期間9月～翌年3月）

▪ **日曜がんセット検診（平成23年度～）**

日曜日にがん検診（胃・大腸・肺がん）を市内の5保健センターで実施（5月～翌年3月の年間計20回）

▪ **郵送による大腸がん検診（平成22年度～）**

気温が低く検体に与える影響が少ない冬期（11～3月）に、郵送による検便の受付を行っている。

▪ **個別医療機関におけるがん検診の実施**

夜間や土曜日でも検診が受診できる環境づくり。

○ 受診勧奨・啓発

▪ 「がん検診受診のご案内」の配布（約62万部作成、各戸に配布）

▪ 受診率向上のための官民共同取組（保険会社、金融機関 計8社）

▪ NPO等との連携による啓発活動（ピンクリボン活動等）

▪ 各区保健センターニュースの回覧・配布（検診の申込書と併せて回覧）

< 受診率が伸びない... >

- 新規事業を取り入れても継続的な受診につながらない。
(クーポン券事業も同様)
→ 京都府とも連携しつつ、長期的に粘り強い啓発が必要
- これまで受診していない層の掘り起こし。
→ 従来の行政からの広報に反応する層は固定化しているため、新しい広報ツールの開拓等が必要。

京都府がん検診受診率調査

市町村検診だけでなく、職場検診や人間ドック等、がん検診受診動向を把握するため、京都府が実施している調査（回収数6,102人，うち京都市民3,405人）。

表1-2 がん検診の受診場所別構成割合(性・年代別)

(単位:%)

		受診					未受診		
		市町村	職場	人間ドック	商工会・農協等	その他	医療機関で類似検査		
男性	40～49歳	40.6	4.3	22.2	13.0	0.2	0.8	59.3	2.7
	50～59歳	43.6	6.2	20.1	16.1	0.1	1.3	56.3	4.6
	60～69歳	37.1	11.2	8.9	15.9	0.0	1.0	63.0	11.4
女性	20～29歳	10.6	6.9	2.6	0.4	0.0	0.6	89.4	11.4
	30～39歳	25.7	13.9	6.4	3.8	0.1	1.5	74.1	20.1
	40～49歳	29.8	11.3	8.9	6.9	0.2	2.6	70.2	7.4
	50～59歳	34.9	14.2	7.7	10.9	0.0	2.1	65.1	6.7
	60～69歳	29.1	12.4	2.3	12.1	0.0	2.3	70.9	7.4



男性に比べ、女性の受診率が低い

→職域の被扶養者（パートタイムや専業主婦）への受診勧奨が必要

協会けんぽとの連携に至るまで

- 大腸がん検診の啓発イベント「LOVE&BRAVE京都ウォーク」にて、お互い（本市：がん検診，協会けんぽ：特定健診）の受診率の低迷が話題となったことがきっかけで、何かしらの連携ができないかの検討が始まる。
- 当初は、お互いが実施している検（健）診の案内を双方の配布物等に掲載し合うことを検討。
- 協議を重ねるうちに「検診の同時実施」に検討が進み、本市が実施している「がんセット検診」と「被扶養者向けの集団特定健診」を同時に実施する方向を見出す。
- 検診の委託先が、25年度については同じ検診事業者であったことから、同時実施に向けて積極的な協力が得られ、その後はスムーズに話が進んでいく。

同時実施にあたっての調整

＜従来のがんセット検診＞

- 1～3月の期間で、複数台の検診車を設置。
- 開催期間中借りることのできる会場を確保し、実施。
(民間施設の駐車場)

○ 実施日の検討

- まずは試行的に、6日間でやってみる。
- 日曜日実施も1日設ける（検診事業者の協力）。
- 特定健診の時期と調整し、8月下旬～10月上旬で実施。

○ 実施場所の検討

- 6日間を間隔をあけて開催するのであれば、交通の便が良い会場を確保できる。
- ⇒ 京都市役所前の広場 & 1Fの会議室を利用
(会場使用料が不要, PR効果も期待)

同時実施にあたっての調整

○ 「受診希望日の事前受付」の導入

- 受付の段階での検診事業者の積極的な協力

○ きめ細やかな周知

- 本市からの従来の周知方法に加え、協会けんぽからも積極的な周知活動（近隣地域へはDM）

○ 会場設営等の調整

- 同時実施の検診会場として市庁舎を利用するにあたっての、検診事業者・庁舎管理担当との調整等

市役所庁舎での検診風景①



市役所庁舎での検診風景②



市役所庁舎での検診風景③



～実施状況～

- 6日間のがん検診受診者数 = **772人**
- 受診者の年齢層

年代	割合	(昨年度実績)
40歳代	49.0%	34.6%
50歳代	17.2%	22.8%
60歳代	23.4%	26.4%
70歳代以上	10.4%	16.6%

➡ **若年層の割合が多い**

～ 実施状況 ～

● 女性の割合 = **75%** → **女性の割合が多い**

● 初めてがんセット検診を受けた方の割合
= **65% (日曜日：80%)**

● 初めて市のがん検診を受けた方の割合
= **44% (日曜日：61%)**

→ **新規の受診者の取り込み**

今回の協会けんぽの集団特定健診との 同時実施の試み

○ 特定健診との同時に受診可能



○ 協会けんぽからの積極的な広報

○ 交通の便が良い場所の確保

○ 日曜日の検診の導入

○ 事前の受診希望日の聞き取り



若年層をはじめとした新しい参加者の
掘り起こしにつながったと考えられる

～ 今後の課題等について ～

- 検診事業者との連携について
- 実施場所の拡充
- 実施日の拡充
- 継続受診に向けた工夫（リピーターの確保）